

記入日（西暦）2026 年 4 月 27 日

一般社団法人日本医療薬学会 学術委員会委員長 殿

医療薬学学術小委員会 研究活動報告書（継続）

1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2025 年度医療薬学学術第 3 小委員会
研究テーマ	患者・市民に対する e ヘルスリテラシー向上を目的とした薬剤師による教育プログラムの開発と実装

2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	イワサワ マキコ
	氏 名	岩澤 真紀子
	所属施設の名称 (正式名称)	北里大学薬学部 北里大学病院薬剤部

構成委員	氏 名	所 属	次年度
	春日井 公美	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部	継続
	山本 悠樹	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部	継続
	婦川 貴博	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部	継続
	長崎 郁美	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部	継続
	前田 実花	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部	継続
	大岡 元	相模原市薬剤師会、大岡薬局	継続
	赤川 圭子	昭和医科大学	継続
	菊池 千草	昭和薬科大学 地域医療部門	継続
	堀井 剛史	武蔵野大学薬学部 臨床薬学センター	継続

注）「次年度」には、継続、新規（次年度から追加）、退任（今年度を以て退任）のいずれかを記入すること。

3. 研究の目的

近年、情報技術の進展により、医療や健康に関する情報をインターネット上で容易に入手できるようになった。しかし、その正確性や信頼性にはばらつきがあり、一般市民には適切な情報を選別し、活用する能力（e ヘルスリテラシー）が求められている。代表者が 2024 年に地域住民を対象に実施したヘルスリテラシー教育では、受講者の 95.7%がスマートフォンなどのモバイル端末を所持し、主にインターネットから健康情報を入手している実態が明らかとなった。この結果から、デジタルツールを活用した e ヘルスリテラシー教育の必要性が示唆された。

先行研究では、集中力や注意力の維持という観点から、短時間動画やマイクロラーニング形式が学習効

果を高めることが報告されている。本研究では、約 30 分で完結する体験型 e ヘルスリテラシー教育プログラムを開発し、講義（インプット）と演習（アウトプット）を組み合わせた学習により、インターネット上の医薬品情報検索・評価・活用スキルを習得させる。さらに、開発した教育プログラムの有効性を実証することを目的とする。

注）枠の大きさは必要に応じて修正し、詳細に記載すること。

4－1．研究活動報告（これまでの研究成果と達成度）

1 これまでの研究成果

(1) オープンキャンパス(OC)における教育プログラムの実施

ヘルスリテラシーに関する講義およびアンケート(初期案)に基づき、7 月および 8 月に実施した北里大学薬学部オープンキャンパスにおいて、高校生や保護者を対象に 30 分間の講義・演習(実習体験)および研究室訪問者を対象としたアンケート調査を行った。実習体験の参加者は計 122 名(10 代 69 名、その他 53 名)であった。アンケート配布 1,356 名(実習体験者を含む)に対し、調査結果の研究利用に対して「理解・同意あり」は 1,028 名(回収率 75.8%)であった。

集計の結果、回答者は女性が多く、年代は 10 代に次いで 40 代・50 代が中心であった。eHEALS スコアの平均は 22.9 で、24 未満(低スコア)が半数以上を占めた。とくに 10 代で低スコアの割合が高く、年代が高いほど eHEALS スコアが高い傾向がみられた。設問別では「健康情報サイトを評価するスキルがある」が最も低く、健康情報の信頼性評価に関する教育の必要性が示唆された。

(2) OC 実習体験参加者における検索行動等の多面的把握

本項の解析結果については、(1)の結果とあわせて、2026 年度医療薬学会年会にてポスターエントリーを予定している。

(3) 教育プログラム案の策定

(1)のアンケート内自由記載で収集した「薬に関する疑問」について、委員で分担し、Q&A 集の作成を進めている。作成した Q&A 集を基に、2026 年度オープンキャンパス(OC)における演習課題の内容を見直すとともに、今後予定している地域イベントで使用する教材の作成・検討に活用する予定である。

2 達成度

2026 年 4 月現在、当初の計画から大きな遅れなく遂行できている。

4－2．研究業績（学会発表、論文等）

現在までに本研究活動の成果に関する学会発表や論文はない。

5. 次年度の活動計画及び到達目標

1. 学術小委員会としての研究活動期間

2026 年 7 月 1 日 ～ 2027 年 6 月 30 日まで 通算 3 年間の 2 年目

- ・ 会議の開催予定回数 10 回

2. 次年度の活動計画及び到達目標(下線＝変更箇所)

(前年度の活動計画又は到達目標を変更する場合は、その理由を記載)

(1) 教育プログラム案の策定

Q&A 集を基に、教育プログラム案を策定する。(年度報告の対象期間と実施時期の整合を図るため、当初 1 年目後半に予定していた活動を次年度へ移動した)

(2) OC における教育プログラムの実施

北里大学薬学部オープンキャンパス(OC)の開催日程が、従来の 7 月・8 月開催から 7 月のみに変更となった。これに伴い、次年度は 7 月の OC にて 1 回 30 分間の実習体験を複数回実施し、eHEALS スコアならびに検索行動・ワークシートの分析を通じて、教育プログラムの効果を評価する。

(3) ヘルスリテラシー教育普及活動および地域プログラムの試行

患者・家族を含む地域住民を対象に教育イベントを連続する 2 日間(2 日程)で試験的に実施する。実施にあたり、相模原市薬剤師会と連携し、会員薬局への啓発ポスター掲示を依頼する。当初は期間を空けて 2 回開催する計画であったが、①会場確保が困難であること、②開催間隔を空けると PC レンタル等の経費が増加すること、③運営マンパワーが限られることから、連続 2 日間での開催へ変更する。地域イベントを通じて、OC とは異なる層のニーズならびに運営上の課題を把握し、今後のプログラム改善に資する。

(4) 質問紙調査と質的テキスト分析

地域プログラムの前後に自由記述式アンケートを実施し、質的テキスト分析によって情報源評価やエビデンス確認に関する言及を抽出する。また、参加者特性との関連も検討する。

(5) 演習問題の開発

スマートフォン等で実施可能な演習問題を既存ツール(Google フォーム等)で開発し、教材および評価手法をブラッシュアップする。

(6) 研究成果の発表

2 年次の成果を国内学会で発表する。

3. その他

特になし。

6. 共同研究、他学会・団体からの支援 (COI 申告を含む)

変更なし

7. 倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等への適合状況（倫理審査等の受審及び承認取得状況を含む）

本研究は、倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等に適合するよう実施する。本研究で実施予定のアンケートは、学会等での発表に使用する可能性があることを明記した上で、任意で回答を求める。さらに、アンケートの質問項目ではプライバシーや機微な情報に配慮し、個人を特定できる情報や特定の疾患、詳細な健康状態を尋ねることはしない。データは匿名で収集し、必要に応じて統計処理を行う。倫理審査の必要性について大学の倫理審査室に確認した結果、「倫理審査指針対象外」との回答を得ている。これにより、本研究は倫理的基準を遵守し、個人情報保護法等の法令にも適合する形で実施される。

なお、研究実施期間中に教育プログラムの一環として新たなテスト回答や自由記載を求め、これらを研究目的で利用するなど、実施内容に変更が生じる場合には、倫理的配慮の観点から手続きの可否をあらかじめ整理する。その際は、医療薬学学術委員会にて内容を審議のうえ必要な見直しを行い、必要に応じて倫理審査委員会での審査に付し、承認を得た上で実施する。

注） 前回提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

8. 研究費支出計画

次年度の研究費支出希望額 342,800 円

費 目	過年度	次年度	全期間
(1) データベースの利用料	0		0
(2) アンケート調査費	0	90,000	100,000
(3) 会場使用料、映像・音響等機材利用料、装飾・案内看板等作成費	0	32,800	70,000
(4) 機器等のリース、レンタル費	0	150,000	220,000
(5) 印刷、製本費	0	10,000	10,000
(6) 通信、運搬費用	0	10,000	20,000
(7) 講師謝金、旅費等（本学会旅費、謝金規程の範囲内に限る）	0	20,000	30,000
(8) 運営スタッフ雇用費	0	0	0
(9) 支払手数料	0	0	0
(10) 消耗品費	0	0	10,000
(11) 業務委託費	0	10,000	20,000
(12) 小委員会活動に直接関連する学会・研修会等への参加費およびそのための旅費	0	0	0
(13) 倫理審査の受審料	0	0	0
(14) 論文投稿料、掲載料	0	0	0
(15) 雑費	0	20,000	20,000
合 計	0	342,800	500,000

注） 過年度の支出額（過去に支出した金額）、次年度（単年度）及び全期間の支出見込みを記載すること。

9. 次年度支出計画の内訳

(2) アンケート調査費:

地域イベントに参加する人に対する文具やティッシュ等の協力御礼として計上した。(次年度発注し、次年度以後のイベントでも使用する)

(3) 会場使用料、映像・音響等機材利用料、装飾・案内看板等作成費:

地域イベントを開催する会場使用料および映像・音響等機材利用料として計上した。

(4) 機器等のリース、レンタル費: 公開講座実施時の PC 約 20 台およびモバイル WiFi のレンタル費として計上した。

(5) 印刷、製本費:

地域イベントの広報用ポスター作製、チラシ印刷、地域イベントにおける資料・テキスト印刷・製本費として計上した。

(6) 通信、運搬費用: 公開講座実施時のレンタル PC 約 20 台の配送料および会場への運搬費用として計上した。

(7) 講師謝金、旅費等: 地域イベントのスタッフとして参加する委員の会場までの交通費として計上した。

(11) 業務委託費: 公開講座実施時のレンタル PC のセットアップ費用として計上した。

(15) 雑費: イベント開催時のお弁当代(2 日間×5 名)を計上した。

注) 費目ごとに詳細な支出計画を記載すること。